

## 第1回国際医療福祉大学塩谷病院運営協議会報告

塩谷郡市医師会副会長 阿久津博美

昨年4月、塩谷病院はJA 栃木厚生連から国際医療福祉大学に継承されましたが、地域の基幹病院としての機能はまだまだ回復していません。こうした状況を改善し、地域医療の再建を図るために、第1回国際医療福祉大学塩谷病院運営協議会が平成22年1月14日に開催されました。協議会のメンバーは学校法人国際医療福祉大学、栃木県、地元住民代表、地元関係市町、塩谷広域行政組合、塩谷郡市医師会の代表ら合計21名で構成されており、今後年1回定例の会議を開催することになります。

会議の冒頭、塩谷病院から、平成21年4月から12月までの診療状況について説明がありました。1ヶ月間の外来患者数は4月が7359名、12月が9805名と約2500名増加、1日平均入院患者数は46名から96名に増加しました。現在の職員数は医師が19名、看護師111名、全職員315名です。医師は都内関連病院からの招聘が多く、通勤等の問題解消のため敷地内に医師住宅を建設中です。また外来でのアンケート調査を実施、利用者から診療・調剤待ち時間が長いとの苦情が寄せられ、非常勤医師と薬剤師を増員し改善しました。施設の修繕や医療機器の購入、看護学校の状況についても報告がありました。

その後の協議では、塩谷病院の外来・入院患者数は順調に増加していることに一定の評価が得られたが、塩谷管内の医療機関の救急患者の受け入れが低く、管外の医療機関への搬送が多い状況を改善するためにも救急患者の受け入れ増加の要望が出されました。これに対し、塩谷病院からは「全国的な医師不足から休日夜間に対応できるだけの医師が確保できていない、特に整形外科医の招聘が困難であり交通事故などの外傷が受けられないが今後も各方面から医師の確保に努めており、4月からは常勤医が二人程度増員される見通しであることが示された。

なお、塩谷郡市医師会では塩谷病院が基幹病院としての機能を回復するためにどのような協力ができるか引き続き検討していきます。